

為替変動にもさまざまな背景がありますが、1つには「国の力」という視点があります。例えば日本では、現役世代の人口減少と高齢者の増加が確定しているといえ、今後成長力の面で懸念があります。中国でも人口減が予想されていますが、アメリカやアフリカは人口増が予想されています。もちろん移民政策や企業・人材誘致などの対策度合いも関係しますが、このように人口の増減などが為替変動の要素にもなっていることを押さえておくとよいでしょう。



例えばこう説明してみよう

3

為替変動リスク



2

金利変動リスク



金利はお金の需給関係をベースに、その国の景気や物価、他国との金融政策のバランスなどを踏まえ変動しています。お客様に身近な住宅ローンを例に出しますと、2016年来のマイナス金利政策下で史上類を見ない低金利水準が続いています。一方、先日は米国の長期金利上昇を見込んだ報道で株価が揺れ動きました。この影響で「国内金利も上昇するのでは」と、変動型で借り入れている方は不安に感じているかもしれません。金利変動がリスクであることの一例としてご理解いただけるかと思います。



例えばこう説明してみよう

ここでは債券を例にとつて、金利についてみていきましょう。国や自治体、企業などは投資家から資金を調達する際、国債や地方債、社債として債券を発行します。

債券は「いつ発行し、いつお金を返すのか」が決まっています。固定金利のような金利が決まっているものは最後まで保有すれば、あらかじめ決まっている金利を受け取れる仕組みです。基本として「一定期間保有していれば受け取ることができる」もので、安心できる部分が多いといえるでしょう。

しかし、購入したのちに世の中の景気浮揚・インフレなどを受けて市場の金利が上昇すると、一般に債券の価格は下落してしまいます。また、景気が後退するなど市場の金利が下がった場合は、一般に債券の価格は上がります。

そのように価格が動くのは、市場に出ている金利の高い債券があれば「相対的に低い金利の債券を売却し、高い債券を購入しよう」と

する人が増える」ためです。金利が下がったときには逆の動きになります。つまり市場の動向に応じて、金利の状況に伴い価格の変動が起きますのです。

また、一般的には残存期間が長い債券ほど金利変動の影響を受け、価格の変動幅も大きくなります。このように、金利の変動は債券価格の変動の大きな要因となっているのです。

株価へも大きく影響する

さらに、金利変動は株価への影響もあります。金利が急に上昇してしまうと、企業としては金融機関からの借入れのコストが上がることにつながり、新しい事業への投資や設備投資へ消極的になってしまう傾向があります。

投資家としても、投資に積極的でない企業には業績に不安を感じてしまい、株価下落の要因へとつながるといえるでしょう。このように、金利動向は常に注視しておかなければならないものといえます。

為替リスク

為替リスク（外国為替リスク）とは、円と外貨の為替相場（各国の通貨の交換相場）が変動することによって、企業や個人の保有する外貨建て資産や負債の価値が上下する可能性を指します。一番身近なところで「円と米ドル」を考えてみましょう。例えば、海外から原油を輸入する業者からすれば、1ドル＝120円のとときに購入するより、1ドル＝100円で購入するほうが安く仕入れることができます。

また海外へ電子部品を輸出する業者の場合は、1ドル＝100円のとときに販売するより、1ドル＝120円で販売したほうが高く売れることとなります。このように、為替相場の変動により支払う、または受け取る金額が大幅に変動することになります。

期待できる国の通貨が買われる

円と外国の通貨との為替相場は、どちらかが高くなるとどちらかが低くなります。投資家は世界のお金の動きや国の力、つまり経

済成長率やインフレ率などがどのような動きをしているのか、また今後どう成長をしていくのかを見ながらその国に投資をしていくこととなります。

つまり、多くの人がこの国に期待できると思えばその国の通貨が買われ強くなります。例えば、指標や状況から日本が今後強くなると考える人が多ければ、1ドル＝110円だった為替相場は100円や90円になっていくのです。

経済動向や世界の状況によって為替相場は変動するため、外貨建て資産を保有している、または海外との取引がある企業も大きく収益が上下します。それゆえ、リスクを一定水準に抑えるために「デリバティブ」を利用している企業が大半です。

先進国だけでなく新興国の通貨も含め、今どこにお金が行っているのかを把握するほか、各国の経済成長率などを注視することで今後期待できる通貨が見えてくるはずですので、日々ニュースなどを確認することが大切です。